

# 中野 凌太

法政経学部 法政経学科 経済学コース 2019 年卒

## ① 自身の仕事

大学院生（博士後期課程）

## ② 自身の仕事の紹介

私は 2019 年に千葉大学を卒業後、大学院に進学し現在博士後期課程の学生です。今回は経済学を専攻する大学院生として紹介したいと思います。

経済学を専攻する大学院生のほとんどは博士前期課程（修士課程）の前半にコアコースと呼ばれる授業を受講することになります。マクロ経済学、ミクロ経済学、計量経済学の 3 分野からなるコアコースは将来研究者としてのキャリアを進んでいくうえで最低限学んでおくべき知識を約 1 年間かけて身に付ける授業です。これらの授業を通じて経済学を研究する下地をつくり、修士論文の執筆へとつなげていきます。コアコースの終了後に本格的に修士論文の執筆にとりかかっていきます。大学や指導教員によって方針は様々だと思いますが私の場合、1 年目はコアコースを受けながら自身の研究テーマを模索し、2 年目以降に本格的に研究に取り組むといった流れでした。

現在は博士後期課程の学生として博士論文の執筆に向けて日々研究に取り組んでいます。前期課程では修了にある程度の単位数が必要となりますが、後期課程まで進むと修了に必要な単位はほとんどありませんので、研究に専念することができます。研究室で机に向かうだけでなく、定期的に学会や研究会等に参加して自身の研究報告を行ったり、関連分野の研究者の報告を聴いたりもします。また TA や RA を任される場合があります。TA（ティーチング・アシスタント）とは教員が行う授業の補佐のことで授業に関する補助業務を行います。近年は授業のオンライン化が進み、オンデマンド用の録画を撮ったり、オンラインで配信するための準備を手伝ったり、課題の採点を請け負ったりします。RA（リサーチ・アシスタント）とは教員の研究活動の補佐業務を行います。研究を一人で行うことは非常に大変であり、データや資料の収集・整理などを学生に任せることがあります。こうした研究・教育活動を通じて研究者・大学教員に必要な素養を身に付けていきます。

## ③ 自身の業界へ興味がある在学生の皆さんへのアドバイス

まずコース選択についてのアドバイスです。私は入学前から経済学に高い関心があったので、1 年次に経済学特進プログラムを選択しました。特進プログラムは順調に進むと早期卒業ができて早く就職・進学することができます。特進プログラムの最大の特徴は 2 年次からゼミナールに参加することができ、専門的な内容に早くから触れられることです。2 年次のゼミナールがきっかけで経済成長論に強い関心を持つようになり、これが現在の研究テーマの中心となっています。最終的に通常の経済コースに移り 4 年かけて卒業しましたが特進プログラムを選んで多くのことが得られたので、経済学を学ぶと決めている学生にとってより良い選択肢だと思います。一方で法政経学部の魅力の一つは入学後にコースを選択できることです。約 1 年間、様々な分野の講義を受講した後に残りの

大学生活で学ぶ分野を選択できる制度は他大学にはあまり見られません。まだ心に決めた分野が見つからない人はじっくり1年かけて考えると良いと思います。

次に大学院への進学を考えている人に向けてのアドバイスです。将来的に研究者を目指す場合、大学院に進学し学位を取得することが王道です。大学院に進学することは経済面や就職面において不安に思う人が多いと思います。しかし、近年は博士課程の学生に対する経済支援が徐々に増えて待遇が改善されつつあります。また学部卒業後、一時的に就職して経済的な余裕を確保したのちに進学することも可能です。確実に経済的な支援が受けられるとは限りませんが大学院への入口は確実に広がっています。これまでの勉強は答えが用意されていることがほとんどだったと思いますが、研究は勉強とは異なり未知の領域へ踏み込んでいき誰も知らない答えを明らかにしていくものです。新たな発見にたどり着くまでの道のりは長く険しいことも多いです。私自身、研究を生涯の仕事とすることに自信がありませんでした。しかし挑戦することなくその道を諦めたくなかった私は、研究者として生きていけるか自分を試す意味も込めて大学院に進学しました。その結果として博士課程まで進み研究を続けています。研究者としてはまだまだ半人前ではありますが、この道を選んでよかったと思っています。勿論、修士を修了して民間企業に就職する人もたくさんいますので、あまり気負う必要はありません。一度きりの人生、大学院に挑戦して実際に研究をしてみてから判断しても遅くないと思います。

(2022年8月)